幸せへの道

人権尊重のまちづくりを目指して3

内子町では、同和問題をはじめとするあらゆる差別を解消し、人権が尊重される明るく住みよいまちづくりを目指しています。私たち一人一人の人権について、みんなで考えていきましょう。

「違いがあるのが人間、違いがないのが人間」

うちこ福祉館館長　名本高成（たかしげ）

昔の人が「色黒く顔の悪（あ）しきは生まれつき直せば直る心直せよ」（『道歌から知る美しい生き方』斎藤亜加里著）と歌を詠んでいます。容姿は、老若男女にかかわらず誰もが気になるものです。言葉にするときにはそれだけの慎みと配慮を失わないようにしたいと思っています。

昔の人の教訓のとおり、皮膚の色や容姿は生まれつき（自然）のもので、自分ではどうすることもできません。しかし自分の心は、直そうと思えば自由自在に直せます。けれども「色が黒く見た目が悪い。そのうえ心を直せ」と気に入らないことばかり言われると素直に直せないのが人間です。そこで「色白で器量の良いのは生まれつき直せば直る心直せよ」と歌を直してみました。ささやかな抵抗です。

ドイツの経済学者・哲学者のマルクスは著書『賃労働と資本』の中で「黒人は黒人である。だがしかし、彼らは一定の諸関係によって『奴隷』となる」と述べています。言うまでもなく、黒人は皮膚の色の黒い人間です。皮膚の色が黒いのは生まれつきであり、その自然な色を変えることは不可能です。しかしその自然な皮膚の色が黒いという理由で「奴隷」にされるのです。色の違いによって差別し「奴隷」にするという不条理で残忍な行為をするのは人間だけです。

ここで明確にしておきたいのは、何を根拠に「奴隷」にするのかということです。マルクスによると「一定の諸関係」ということになります。が、その「一定の諸関係」とは、時の権力者あるいは有力者などの一部の人たちによって、一方的に決められた社会関係における制度（契約）であろうと思います。それが「奴隷制度」でしょうか。当然その制度は客観的でも普遍的なものでもなく、一部の権力者が自らの特権と利益の獲得を目的にしたものであったと考えてよいと思います。従って、その根拠となる不当な「奴隷制度」を正当化するため、目で見て最も明確に違いが分かる皮膚の色を決定的な判断材料としたのです。ちなみに同和問題は、違いがないのでわざわざ違いをつけて差別を制度化したものと思っています。

観点によって「違いがあるのが人間、違いがないのが人間」ですが、その違いでもって差別するのも、その違いを大切にするのも人間です。時々「世間の物差し」から「人権という物差し」を当てて観点を調節することも必要であると思っています。

※現在「奴隷」という差別用語は使いませんので、「」を付けて標記しています。

差別を受けたり、差別落書きを発見したりした場合は、ご連絡ください。
○うちこ福祉館　☎０８９３（４４）３４１０
○参川福祉館　☎０８９２（５０）１０１５
○内子町役場　住民課　☎０８９３（４４）６１５２　※休日も受け付けています。